

Course number		U-LAS05 10004 LJ40					
Course title (and course title in English)		生態人類学Ⅰ Ecological Anthropology I		Instructor's name, job title, and department of affiliation		Graduate School of Asian and African Area Studies Professor,OYAMA SHUICHI Graduate School of Asian and African Area Studies Associate Professor,SATO HIROKI Graduate School of Asian and African Area Studies Program-Specific Assistant Professor,SHIOYA AKIYO	
Group		Humanities and Social Sciences		Field(Classification)		Regions and Cultures(Foundations)	
Language of instruction		Japanese		Old group		Group A	
Number of weekly time blocks		1		Class style		Lecture (Face-to-face course)	
Year/semesters		2025・First semester		Number of credits		2	
Days and periods		Tue.2		Target year		All students	
Eligible students		For all majors					
[Overview and purpose of the course]							
生態人類学とは、自然環境と人間生活の相互関係を研究する人類学の一分野である。本講義では、担当教員たちの長期にわたるフィールドワークの経験をとおして、アフリカの乾燥疎開林とサハラ砂漠の南縁であるサヘルの半乾燥地(大山)、熱帯モンスーン地域の森林(佐藤)、熱帯雨林とサバンの境界域(塩谷)という異なった環境における農耕民の生態・社会・文化の動態について論じる。							
[Course objectives]							
人類の生活と生存について、その基盤から考える視点を得る。							
[Course schedule and contents]							
第1回 アフリカのさまざまな農業と人びとの暮らし(大山) 第2回 自給農業は貧しいのか(大山) 第3回 農業の起源とドメスティケーション(大山) 第4回 熱帯林を科学する(佐藤) 第5回 森林破壊とその影響(佐藤) 第6回 熱帯林がもたらす恵み(佐藤) 第7回 熱帯林を護るしくみ(佐藤) 第8回 人と自然の共生をめざして(佐藤) 第9回 熱帯雨林の資源利用と保全(塩谷) 第10回 農村開発の現場(塩谷) 第11回 都市化の進展と農業(塩谷) 第12回 商業的農業と人びとの暮らし(塩谷) 第13回 西アフリカ・サヘル地帯の砂漠化(大山) 第14回 住民の在来知識による荒廃地の環境修復(大山) 第15回 フィードバック							
[Course requirements]							
None							

Continue to 生態人類学Ⅰ(2)							

生態人類学Ⅰ(2)

[Evaluation methods and policy]

授業中に担当者3人が課すレポートによって評価します。

[Textbooks]

Not used

[References, etc.]

(References, etc.)

掛谷誠・伊谷樹一（編）『アフリカ地域研究と農村開発』（京都大学学術出版会）ISBN: 9784876989898（アフリカ乾燥疎開林におけるフィールドワークにもとづく農村開発の実践活動を記録している。）

大山修一(著)『西アフリカ・サヘルの砂漠化に挑む - ごみ活用による緑化と飢餓克服、紛争予防』（昭和堂）ISBN: 9784812214367（サヘルの農耕民と牧畜民，在来技術による砂漠緑化の試みについて記している。）

高村泰雄・重田眞義（編）『アフリカ農業の諸問題』（京都大学学術出版会）ISBN:4876980543（アフリカ農業の可能性と課題について展望を得ることができる。）

重田眞義・伊谷樹一（編）『争わないための生業実践 生業資源と人びとの関わり』（京都大学学術出版会）ISBN:9784814000081（アフリカ各地の農村における生態資源と生業の変化、および人々の共存の様態を描く。）

日本生態学会（編）『生態学と社会科学の接点』（共立出版）ISBN:9784320057425

Brandon K 『Ecosystem Services from Tropical Forests: Review of Current Science.』（Center for Global Development Working Paper No. 380, Washington DC.）（<https://ssrn.com/abstract=2622749>）

伊谷樹一（編）『つくる・つかう(生態人類学は挑む SESSION 4)』（京都大学学術出版会）ISBN: 9784814004416

(Related URL)

http://jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/africa_division/

[Study outside of class (preparation and review)]

講義を聴いて興味を持った事項について，図書，論文，インターネットなどでみずから調べること。関連する図書や論文などの情報については講義中に適宜指示する。

[Other information (office hours, etc.)]

人類学，生態学，農学，環境科学、開発，環境保全、フィールドワークなどに関心をもっている学生諸君を対象とする。人類と環境との関わりについて深く考えようとする学生の受講を希望する。スライドやビデオを活用する予定。